

八幡館遺跡

—特別養護老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2015

社会福祉法人ようざん会
高崎市教育委員会
有限会社 高澤考古学研究所

例　言

- 1 本書は、群馬県高崎市八幡町字館 768 番 1、768 番 56 に所在する「八幡館遺跡」(高崎市遺跡調査番号 616) の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、特別養護老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、社会福祉法人ようざん会様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課　田口 一郎・針井 修・田辺 芳昭
有限会社 高澤考古学研究所　澤田 福宏
- 6 発掘調査は、平成 26 年 12 月 1 日から平成 27 年 1 月 20 日までの期間で実施した。調査面積は 175m²である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
- 8 基準・水準点測量および遺構・遺物平面図測量はタナカ設計に委託した。
- 9 空中撮影は加藤空撮に委託した。
- 10 遺構および遺物撮影は、澤田が行った。
- 11 発掘調査と整理作業に従事した者は、以下の通りである。(敬称略、50 音順)
飯塚 時司・小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・住谷 次男・関根 折夫・蓬田 保伯・渡 明秀
- 12 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関に協力を賜った。(敬称略、50 音順)
竹内事務所・塙本建設株式会社・株式会社モアブレーン・山下工業株式会社
- 13 発掘調査により得られた資料および出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡　例

- 1 遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標IX系を使用した。
- 2 上層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局(財)日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500(高崎市都市計画基本図)を使用した。
- 4 掲載図の縮尺は、各キャプションおよび各図に示した通りである。
- 5 掲載図中に使用した断面図において、使用面は太線で表現した。
- 6 遺物実測図の縮尺は、各キャプションに示した通りである。
- 7 復元実測を行った遺物に関しては中心線と口縁部線を 2mm 分あけて表現した。
- 8 遺物実測図の断面表現にて、上師器は白抜き・須恵器は黒塗りとした。
- 9 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-C 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
Hr-FA 6 世紀初頭降下「榛名二ツ岳火山灰」
As-B 1108 年(天仁元年)降下「浅間 B 軽石」
As-A 1783 年(天明 3 年)降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次	
I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 道跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	4
V 調査の成果	6
VI 総括	16
写真図版	
参考文献・抄録	

挿図・挿表目次

第1図	周辺遺跡図 (1/25,000)	3
第2図	遺跡位置図 (1/2,500)	4
第3図	基本堆積土層・柱状図・写真	4
第4図	道跡全体図 (1/150・1/500)	5
第5図	1号住居 平面図・断面図・掘り方平面図 (1/60) カマド断面図 (1/30)	6
	出土遺物図 (1/3)	
第6図	2号住居 平面図・断面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)	7
第7図	2号住居 掘り方平面図・エレベーション図 (1/60)	8
第8図	3号住居 平面図・断面図 (1/60)	8
第9図	4号住居 平面図・断面図・掘り方平面図 (1/60) カマド平面図・断面図 (1/30)	9
	出土遺物図 (1/3)	
第10図	5号住居 平面図・断面図・掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)	10
第11図	6号住居 平面図・断面図・掘り方平面図 (1/60) カマド平面図・断面図 (1/30)	11
第12図	6号住居 山土遺物図 (No.16～24:1/3 No.25:1/4)	12
第13図	7号住居 平面図・断面図・掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)	13
第14図	1号溝 1・2号溝状造構 平面図・断面図 (1/60)	14
第15図	1・2号土坑 平面図・断面図 (1/60)	15
第16図	3号土坑 平面図 (1/60)	15
第17図	3号土坑 断面図 (1/60)	16
第18図	1～3号ピット平面図・断面図 (1/40) 3号ピット出土遺物図 (1/3)	16
第1表	周辺遺跡一覧表	3
第2表	1号住居遺物観察表	6
第3表	2号住居遺物観察表	7
第4表	4号住居遺物観察表	9
第5表	5号住居遺物観察表	10
第6表	6号住居遺物観察表	12
第7表	7号住居遺物観察表	13
第8表	3号ピット遺物観察表	16

写真図版

PL1:空撮 PL2:調査写真 PL3:調査写真 PL4:調査写真 PL5:調査写真 PL6:調査写真
PL7:調査写真 PL8:出土遺物写真

I 調査に至る経緯

平成 26 年 6 月、土地所有者堀口泰正氏と施工主体者社会福祉法人ようざん会から高崎市八幡町館において計画している特別養護老人ホーム建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である八幡遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 7 月 1 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 7 月 15 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代から平安時代の竪穴建物を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「八幡館遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 26 年 11 月 14 日に社会福祉法人ようざん会・民間調査機関有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結、また翌日に社会福祉法人ようざん会と有限会社高澤考古学研究所との間で契約も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督することになった。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約 86 ~ 127cm 下であることが確認されている為、平成 26 年 12 月 2 日に重機にて表土を除去し、ショレン用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘通り、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡および溝、土坑等を検出した。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、振り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を所得しながら調査を行った。写真は 35mm 小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの 2 種類のフィルムを使用し、1010 万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量はトータルステーションを使用し作成した。住居使用面での調査が終了した後、住居掘り方調査を行った。すべての調査が終了した後、ラジコンヘリコプターを使用し空中撮影を実施した。その後、基本堆積土層の確認の為、深掘り作業を行い、平成 27 年 1 月 20 日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

- 12 月 1 日 調査区位置出し作業 現場調査開始準備
- 12 月 2 日 重機により表土除去作業開始 作業員動員し遺構確認作業開始
- 12 月 3 日 重機による表土除去終了
- 12 月 4 日 1・2・3・4 号溝検出
- 12 月 8 日 調査区北側にサブトレントを設定し住居確認作業 1・2・3 号住居検出
- 12 月 9 日 各遺構掘り下げ作業開始
- 12 月 17 日 4・5・6・7 号住居検出
- 12 月 19 日 トータルステーションによる各遺構平面測量および遺物計測作業
- 12 月 25 日 現場養生作業 年内作業最終日
- 1 月 6 日 現地調査再開 各遺構掘り下げ作業
- 1 月 13 日 遺構清掃作業および空掘準備
- 1 月 14 日 ラジコンヘリコプターによる空撮
- 1 月 19 日 基本堆積土層確認の為、深掘り作業 トータルステーションによる各遺構平面測量作業
- 1 月 20 日 高崎市教育委員会による発掘作業完了確認 現場撤収作業 本日にて現地調査終了

III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉢山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。八幡館遺跡は、高崎市街地より西北西約5.3km、鳥川と碓氷川の両河川に挟まれた台地上に所在する。この台地は八幡台地と称され、安中市の秋間丘陵から連続する丘陵の先端部分で、東西に延びる2本の小支谷により大きく3つの台地に分けられる。北側が劍崎支台、中央部が若田支台、そして南側が八幡支台と呼ばれ、各台上では遺跡が密に存在し、本遺跡はこの八幡支台の南側縁辺部に位置し、標高は約132.7mである。

周辺遺跡として、旧石器時代の遺跡は確認されていないが、劍崎長瀬西遺跡(12)において爪形文土器、多綱文系土器、有舌尖頭器等が出土しており、縄文時代草創期からの生活が伺える。また、若田原遺跡(13)では前期末葉及び中期後半から後期中葉の住居跡が確認され、大島原遺跡(10)においても中期後葉の住居跡が検出されている。弥生時代になると遺跡は増大し、後期樽式期には八幡遺跡(5)、劍崎長瀬西遺跡、引間遺跡(16)等において比較的大規模な集落が営まれるようになる。古墳時代では、劍崎長瀬西遺跡、八幡中原遺跡(8)、七五三引遺跡(9)にて韓式系土器が検出され、劍崎長瀬西遺跡においては他に、梯子形立聞付X字銘留梢円形鏡板付骨簪及び金製垂飾付耳飾りが出土するなど朝鮮半島に系譜をもつ渡来系の遺物の検出例が多く、渡来人による牧(牧場)の運営が推測される地域である。また、古墳及び古墳群も密に存在しており、5世紀代には劍崎天神山古墳(15)<5世紀中葉か?>、劍崎長瀬西古墳(11)<5世紀後半>、平塚古墳(6)<5世紀後半~末>が築かれ、6世紀代には、若田大塚古墳(14)<6世紀初頭>、八幡二子塚古墳(4)<6世紀代>、親音塚古墳(7)<6世紀末>が構築される。群集墳に関してはこれら主要な古墳に隣接して築造されており、5世紀後半代の初期群集墳が確認された劍崎長瀬西遺跡、5世紀後半から7世紀代の群集墳である八幡遺跡古墳群(5)、7世紀代の大島原遺跡古墳群(10)、劍崎長瀬西遺跡などが構築され、周辺一帯では数多くの古墳が確認されている。古代においても遺跡は多く、豊岡後原遺跡(17)、八幡中原遺跡では大集落が確認されている。また、八幡六牧遺跡2(3)では「片正郡」と篆刻された須恵器腹片が出土しており、近隣は片岡郡との関連も示唆される地域である。周辺の中世の資料は乏しいが、本遺跡が15世紀末から16世紀初頭に築城された八幡館(2)の敷地内にあり、今回の調査では中世の遺物は確認されなかったが、3号土坑及び1号溝状遺構が八幡館との関連が推測される資料である。

また、本遺跡がある八幡支台は、台地に沿って古代東山道のルートが想定されており、野後駅(安中市)から群馬駅(前橋市総社町)へ北上する「国府ルート」と野後駅から東へ向かう「牛堀・矢ノ原ルート」との分岐点にあたり、交通の要衝としての性格も有する地域である。



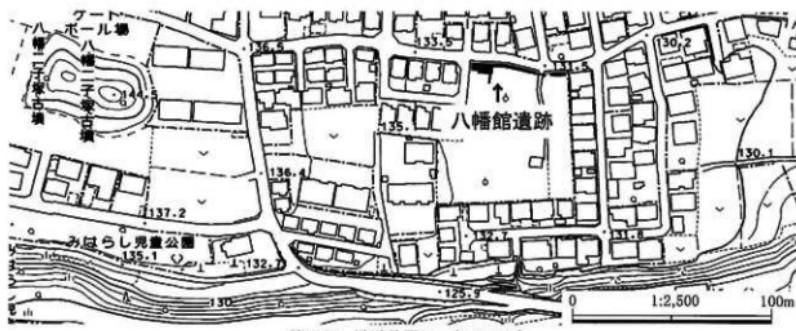
高崎市役所からの遠景（西方向を望む）



第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

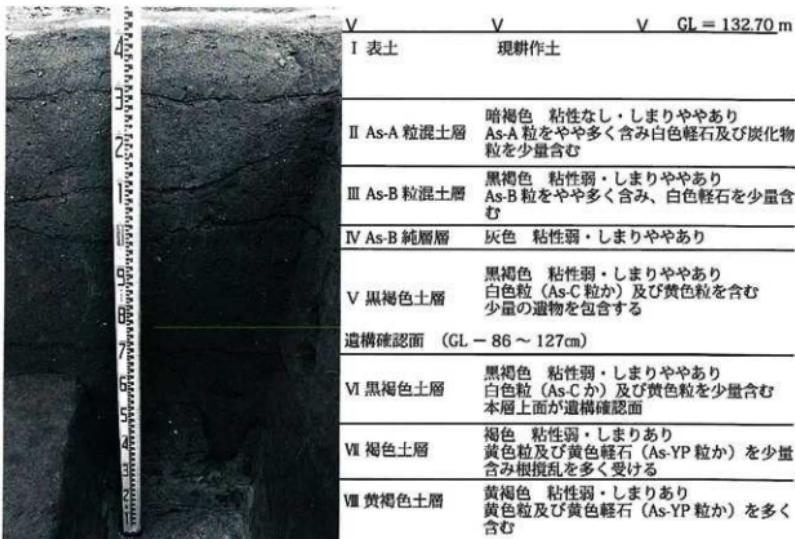
No.	遺跡名	遺跡の概要	文献
1	本道跡	古墳・奈良平安時代 集落	本報告書
2	八幡道跡	方形壇(板郭) 6世紀末～16世紀初頭 上杉氏か	1996『新編 高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
3	八幡六枚塚跡 2	弥生～奈良平安時代 集落 築削土器	2010『八幡・六枚塚跡2』高崎市文化財調査報告書第274集
4	八幡二子塚古墳	前方後円墳 (全長 66m) 6世紀前半	1998『八幡二子塚古墳』高崎市文化財調査報告書第71集
5	八幡二子塚遺跡	弥生・平安時代 集落 古墳2基	
6	八幡道跡	弥生・奈良・平安時代 集落 方形周溝墓1基	1988『八幡道跡』高崎市文化財調査報告書第91集
7	八幡道跡古墳群	古墳25基 5世紀後半～7世紀後半	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
8	平塚古墳	前方後円墳 (全長 105m以上) 6世紀後半～末葉	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
9	鏡台古墳	前方後円墳 (全長 96m以上) 6世紀末～7世紀初頭	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
10	八幡中原遺跡	古墳・奈良・平安時代集落 韓式系土器	1982『八幡中原遺跡』高崎市文化財調査報告書第31集
11	七五三引道跡	古墳時代 集落 韩式系土器	1984『七五三引道跡』高崎市文化財調査報告書第6集
12	大鳥原遺跡	绳文時代中期 古墳時代 集落	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
13	大鳥原遺跡古墳群	古墳1基 7世紀代	
14	劍崎長瀬西古墳	円墳 (埴丘径約 30m) 5世紀後半	2002『劍崎長瀬西古墳1』高崎市文化財調査報告書第179集
15	劍崎長瀬西遺跡	绳文時代早期・中期・奈良時代 集落	2002『劍崎長瀬西遺跡1』高崎市文化財調査報告書第179集
16	馬糞山古墳	筒状土器 馬糞葬土坑 金製垂飾耳飾	2004『劍崎長瀬西遺跡2』高崎市文化財調査報告書第190集
17	5世紀後半初期鉄鋤	7世紀代鉄集墳 古墳35基	
18	石田原遺跡	绳文時代前期・中期 集落	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
19	若田大塚古墳	円墳 (埴丘径 29.5m) 6世紀初頭	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
20	劍崎天神山古墳	円墳 (埴丘径約 30m) 5世紀前半	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
21	引間遺跡	弥生時代後期・古墳時代後期 集落	1979『引間遺跡』高崎市文化財調査報告書第5集
22	豊岡後原遺跡	奈良・平安時代 集落	1998『豊岡後原1・II遺跡』高崎市文化財調査報告書第157集



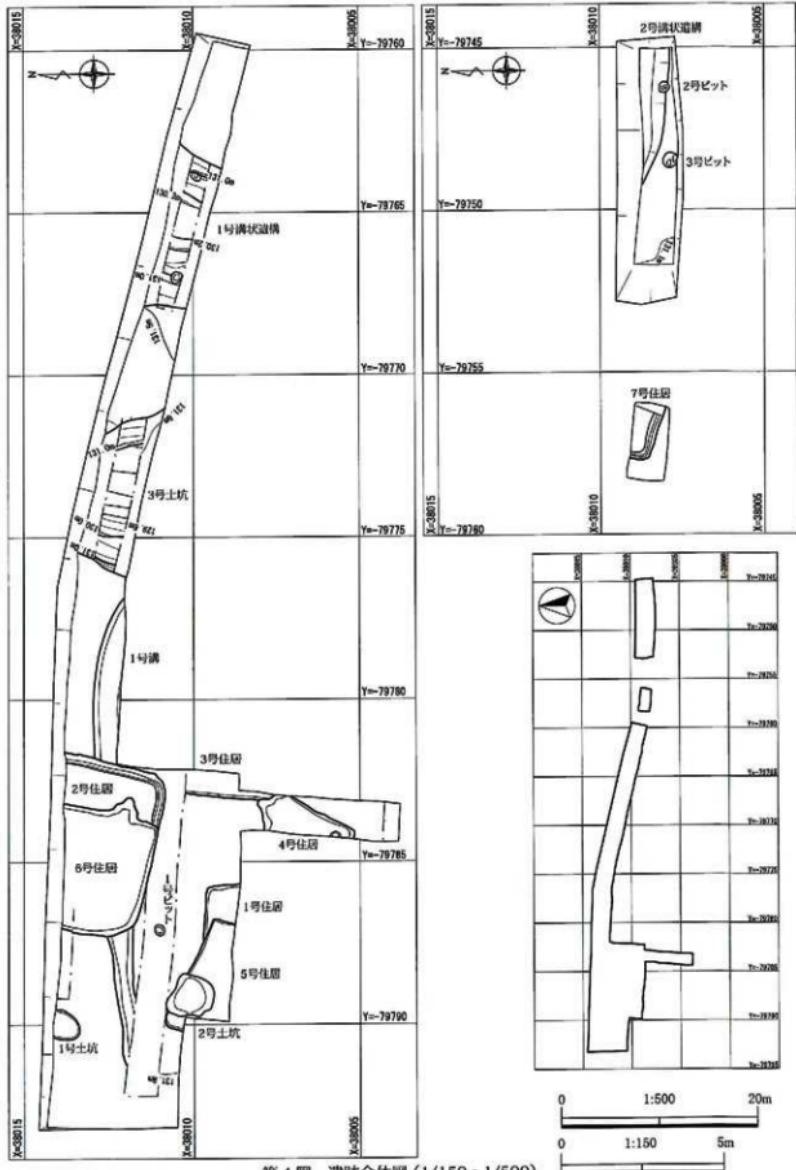
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

IV 基本堆積土層

I層は現耕作土で約15cm堆積している。II層はAs-A粒混土層で、As-A粒を多く含み、炭化物粒を少量含む。20cm程堆積している。III層はAs-B粒混土層で、IV層はAs-B純層である。調査区北西部にて部分的に認められ、約10cm程堆積している。V層は黒褐色土でAs-B粒は含まれない。As-C粒と推測される白色粒を含み、遺物を少量包含する。全体的に厚く、30~40cm程堆積している。VI層は黒褐色土でV層同様にAs-C粒と考えられる白色粒と黄色粒を少量含み、20cm程堆積している。本層上面が造構確認面で、現地表から約86~127cm下である。VII層は褐色土層でAs-YP粒と考えられる黄色鉄石を少量含み、15cm程堆積している。VIII層は地山ローム層で、As-YP粒と考えられる黄色鉄石を多く含み、非常に硬く締まっている。現地表から約1.1~1.3m下にて堆積が認められる。



第3図 基本堆積土層 柱状図・写真



第4図 遺跡全体図 (1/150・1/500)

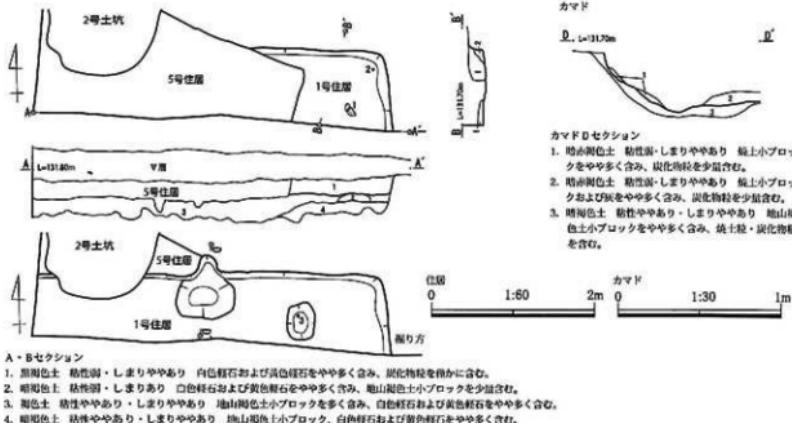
V 調査の成果

発掘調査の結果、竪穴住居跡 7軒、溝 1 条、溝状遺構 2 条、土坑 2 基、土坑状遺構 1 基、ピット 3 基を検出した。基盤となる層はローム層で、遺構は現地表より約 86 ~ 127cm 下の黒褐色土（基本堆積 V 層）上層での検出である。旧地形は西から東に向かい緩傾斜しており、西側と東側での高低差は約 65cm である。住居跡は調査区西側に多く検出され、いずれも基本堆積 VI 層を掘り抜いて構築されている。調査区北西側の一部にて As-B の純層が確認されているが、直下にて墓跡および生活の痕跡等は確認出来なかった。

竪穴住居跡

1号住居

調査区西側で検出された。5 号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。南側が調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は東西 4.23m 以上、南北 88cm 以上である。検出された床面は住居北西コーナー一部のみで、この部分での貼り床は確認できなかった。壁認面から床面までの深さは約 17cm である。壁周溝およびその他の付帯施設は確認されなかった。カマドは北側に位置し、5 号住居により破壊されている為掘り方のみの検出である。掘り方はやや深く不整形である。掘り方にて柱穴が 1 基検出されたが、組み合う柱穴は検出されなかつた。遺物は床面から No. 1, 2 が、柱穴から No. 3 が出土した。重複関係および出土した遺物から帰属時期は 7 世紀前半であると考えられる。

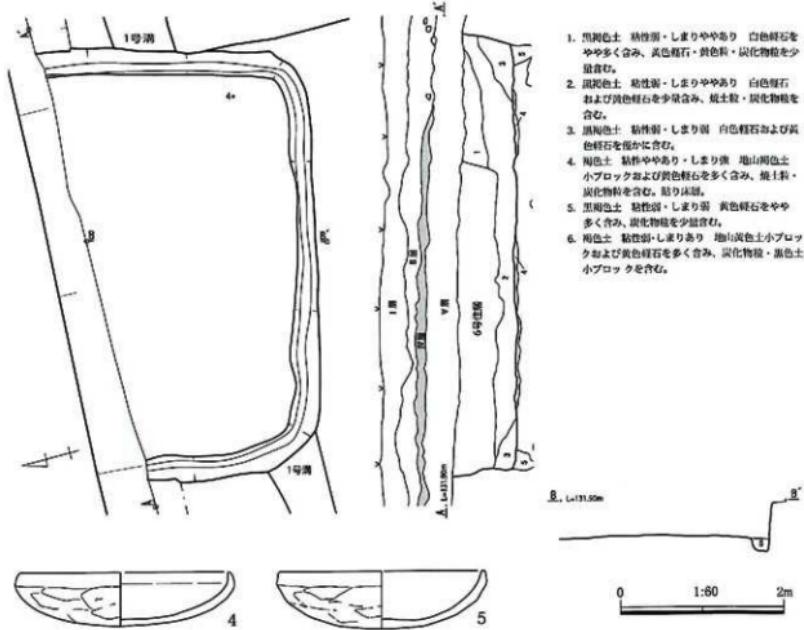


第5図 1号住居 平面図・断面図・掘り方平面図(1/60) カマド断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)
第2表 1号住居遺物観察表(単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 高さ・(残高)	整形・調整・文様等		胎土	焼成(質感) 色
				外面	内面		
1	土師器 环	1号住居 床直	18.7 · - <5.4>	口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り	口縁部~体部上ヨコナデ 体部下ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
2	土師器 环	1号住居 床直	11.4 · - 3.3	口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り	口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
3	土師器 环	1号住居 1P 覆土	12.1 · - 4.0	口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り	口縁部~体部上ヨコナデ 体部下ナデ	細砂粒・黑色粒 雲母	良好(硬質) 灰黄褐色

2号住居

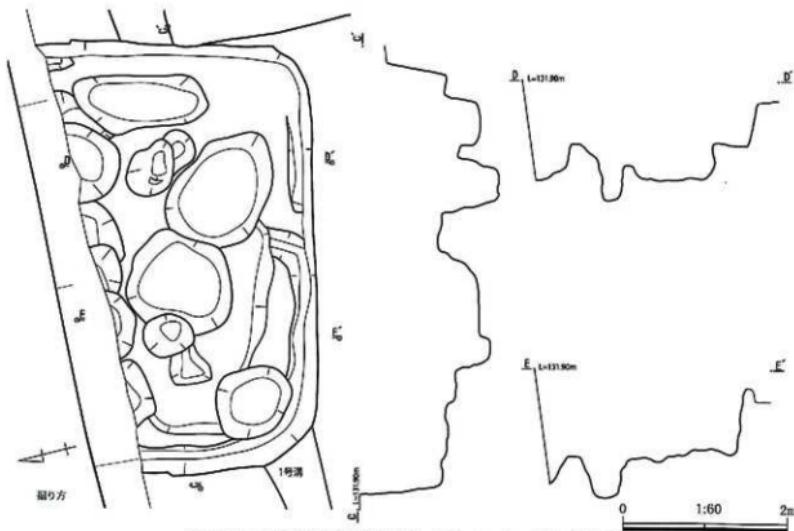
調査区北西側で検出された。6号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。一部調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は東西 5.28m、南北 2.95m 以上である。西壁と南壁一部が 6号住居と共有すると考えられ、同一の方位で構築されている。ただし、6号住居は浅い沟、本遺構の床面は破壊されておらず、西壁が若干削られてるにすぎない。床面は平坦で約 3cm 貼り床され、全体的に硬化している。特に住居中央部は非常に硬く締まっている。確認面から床面までの深さは約 65cm である。幅 25cm 前後、深さ 8cm 程の壁周溝が全体に周る。使用面では柱穴は確認出来なかったが、掘り方にて 2基の柱穴が検出された。カマドは確認されなかつたが、北側の床面付近にて焼土粒および炭化物粒が若干多い為、北側の調査区外にカマドが存在する可能性がある。遺物は床面から No.4 が、覆土から No.5 出土した。掘り方は非常に深く、床下から土坑状遺構が 7基以上検出された。これらの用途および使用目的は不明であるが、土層断面の検証から人為的に埋め戻されていると考えられる。出土した遺物および重複関係から帰属時期は 7世紀後半から 8世紀前半であると考えられる。



第6図 2号住居 平面図・断面図(1/60) 出土遺物図(1/3) トーン部は As-B 純層

第3表 2号住居遺物観察表(単位cm)

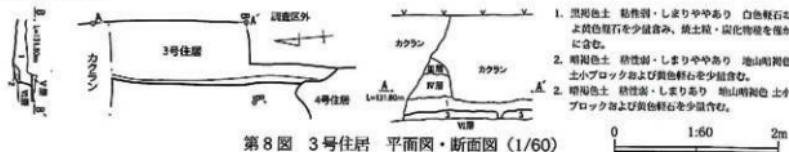
番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・ <残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
4	土師器 环	2号住居 床直	12.5・ー 3.5	外面: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面: 口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・黒色粒 角閃石	良好(硬質) 橙色
5	土師器 环	2号住居 覆土	12.6・ー 3.6	外面: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面: 口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・黒色粒 角閃石	良好(硬質) 橙色



第7図 2号住居掘り方平面図・エレベーション図(1/60)

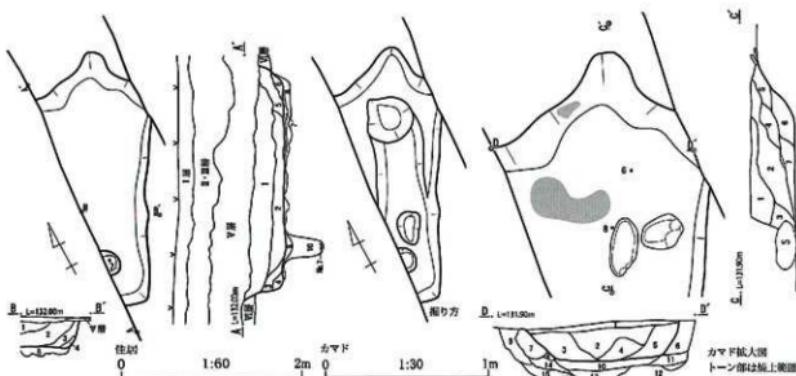
3号住居

調査区西側で検出された。4号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。大部分が調査区外になる為、詳細は不明である。床面は貼り床されず、基本堆積VI層を平坦に整えて床面としている。確認面から床面までの深さは約15cmである。壁周溝および柱穴は検出されず、カマドの痕跡も確認されなかった。遺物は覆土から土器器片が少量出土したが、図示できる個体はない。4号住居との重複関係から帰属時期は8世紀以前であると考えられる。



4号住居

調査区南西側にて検出された。部分的に調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は、南北2.12m、東西1.22m以上で、北側にカマドが構築されている。床面は平坦で、北東側は約2cmの貼り床が認められ硬化しているが、南側には貼り床ではなく、さほど硬化していない。確認面から床面までの深さは約32cmである。南東隅に柱穴を検出したが、組み合う柱穴は確認されなかった。壁周溝および貯蔵穴は確認されなかった。カマドは、左袖は地山褐色粘土を使用し構築されているが、右袖では確認できなかった。カマド壁は被熱が少なく、焼土化は僅かである。床面には焼土ブロックと被熱した礫が2個検出されており、カマドの構築材と考えられる。遺物は柱穴底部からNo.7が、カマド周辺の覆土からNo.6が出土した。掘り方は浅く不整形だが、カマド前が若干土坑状になる。出土した遺物から帰属時期は8世紀前半であると考えられる。



住居 A-セクション

- 黒褐色土 粘性土・しまりややあり 白色軽石および黄色軽石を含み、純土粒・炭化物粒を少混合。
- 暗褐色土 粘性土・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび白色軽石・黄色軽石を少量含み、炭化物粒を僅かに含む。
- 黒褐色土 粘性土・しまりややあり 地山褐色土+ブロックをやや多く含み、黄色軽石を少混合。
- 暗褐色土 粘性土・しまりややあり 地山褐色土+ブロックをやや多く含み、黄色軽石を少混合。
- 黒褐色土 粘性あり・しまり弱 白色軽石および黄色軽石を少混合、純土粒・炭化物粒を僅かに含む。
- 黒褐色土 粘性あり・しまり弱 白色軽石および黄色軽石を少混合、純土粒・炭化物粒を少混合。
- 褐褐色土 粘性土・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび黄色軽石を多く含み、純土粒・炭化物粒を含む。上面は非常に硬く硬化している。
- 暗褐色土 粘性土・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび黄色軽石を少混合。
- 暗褐色土 粘性土・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび黄色軽石を少混合。
- 暗褐色土 粘性あり・しまり弱 地山褐色土+ブロックおよび黄色軽石を多く含み、純土粒・炭化物粒を少混合。

10. 暗褐色土 粘性ややあり・しまり弱 地山褐色土+ブロックおよび黄色軽石を多く含み、炭化物粒を少混合。底より3mが出土。

カマド Cセクション

- 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび黄色軽石を多く含み、純土粒・炭化物粒を含む。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロックおよび純土粒をやや多く含み、地山褐色土+ブロックを少混合。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロック+純土粒を少混合。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロックおよび純土粒をやや多く含む。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロックおよび純土粒を少混合。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロックおよび純土粒を少混合。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロックおよび炭化物粒を少混合。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロックおよび炭化物粒を少混合。
- 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地上小ブロックおよび炭化物粒を少混合。

炭化物粒を含む。

カマド Dセクション

- 1-2. 居間 A-Cセクションと同じ
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 純土小ブロックおよび純土粒をやや多く含む。
4. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 純土粒および炭化物粒を少混合。
5. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび白色軽石を少混合。
6. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 純土粒および炭化物粒・黄色軽石を少混合。
7. 黄褐色土 粘性弱・ややあり・しまりややあり 地山褐色土土壁。
8. 黄褐色土 粘性弱・ややあり・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび純土粒。
9. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石および炭化物粒を少混合。
10. 黄褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび純土小ブロックをやや多く含む。
11. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石および炭化物粒を少混合。
12. 明褐色土 粘性弱・しまりややあり 純土粒および炭化物粒を僅かに含む。
13. 明褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土+ブロックおよび純土小ブロックを多く含み、炭化物粒を含む。
14. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 純土粒および炭化物粒をやや多く含む。
15. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 純土粒および炭化物粒・黄色軽石を少混合。



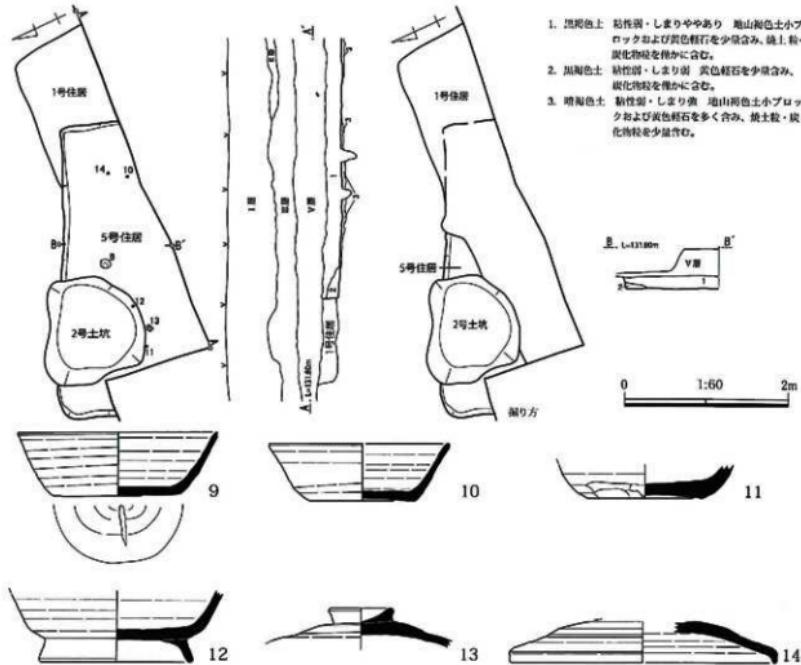
第9図 4号住居 平面図・断面図・掘り方平面図(1/60) カマド 平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)

第4表 4号住居遺物観察表(単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土部位	口径・底径 器高・<残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質) 色
6	須恵器 环	4号住居 覆土	14.0・8.7 3.6	外面: 鏽転整形 底部ヘラ切り 一部自然釉付着 底部外周部ヘラ削り調整 内面: 鏽転整形	細砂粒・黒色粒	良好(硬質) 褐灰色
7	須恵器 高台付环	4号住居1ピット 底面	14.4・9.5 4.2	外面: 鏽転整形 高台部削り出し 内面: 鏽転整形	細砂粒・黒色粒 白色粒	良好(硬質) 灰白色
8	須恵器 蓋	4号住居 覆土	14.0・ <2.0>	外面: 鏽転整形 天井部回転ヘラ削り 内面: 鏽転整形 僅かなえりをもつ	細砂粒・黒色粒 白色粒	良好(硬質) 褐灰色

5号住居

調査区西側にて検出された。1号住居及び2号土坑と複雑関係にあり、1号住居より新しく、2号土坑より古い。大部分が調査区外になる為規模等の詳細は不明である。床面は平坦で、地山褐色と黒色土の混土で3cm程貼り床され、やや硬く締まる。確認面から床面までの深さは約18cmである。柱穴および壁周溝は確認されなかった。カマドは調査区外に存在すると考えられ、痕跡および構築材等は検出されなかつた。遺物は床面からNo.11が出土した。掘り方に関しては、1号住居の方が深い為に平面を確認するのは困難であった。出土した遺物および複雑関係から帰属時期は8世紀後半から9世紀前半であると考えられる。



第10図 5号住居 平面図・断面図・掘り方平面図(1/60) 出土遺物図(1/3)

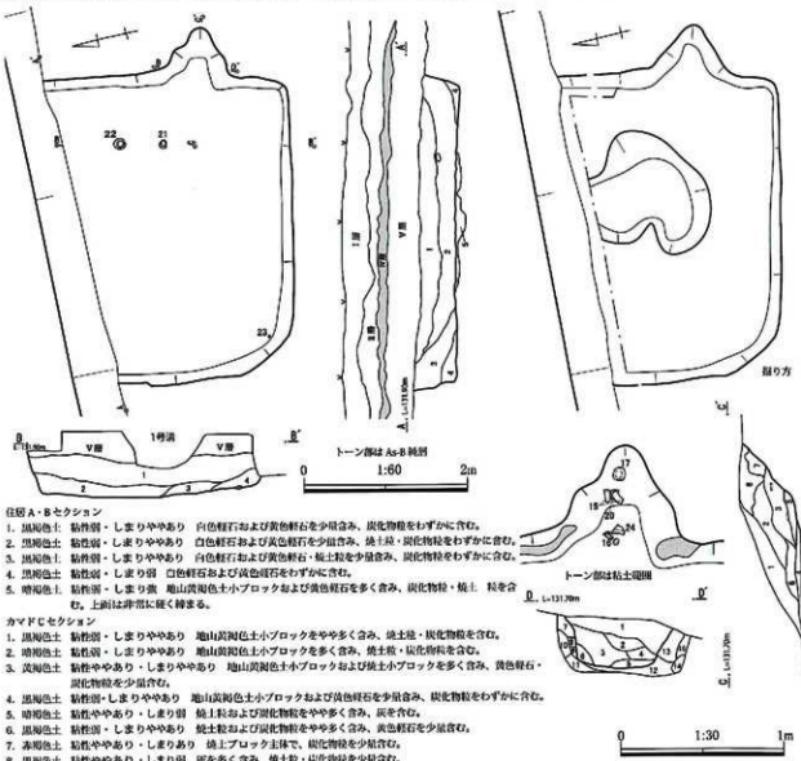
第5表 5号住居遺物観察表(単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土部位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
9	須恵器 壺	5号住居 覆土	11.6・5.3 4.0	外面：縦轆整形 底部回転ヘラ切り ヘラ圧痕あり 内面：縦轆整形 ヘラ線刻か	細砂粒・黒色粒	良好(硬質) 褐灰色
10	須恵器 壺	5号住居 覆土	11.0・6.4 3.5	外面：縦轆整形 底部右回転糸切り 自然胎付着 内面：縦轆整形	細砂粒・黒色粒 白色粒	良好(硬質) 褐灰色
11	須恵器 壺	5号住居 覆土	—・7.0 (2.1)	外面：縦轆整形 底部右回転糸切り後縁ヘラ削り	細砂粒・白色粒	良好(やや軟質) 灰白色
12	須恵器 碗	5号住居 覆土	—・8.9 (4.4)	外面：縦轆整形 底部右回転糸切り後高台貼付け 内面：縦轆整形	細砂粒・黒色粒 白色粒	良好(硬質) 褐灰色

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 <残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
13	須恵器 蓋	5号住居 覆土	一・椭 3.9 <2.4>	外面: 植縫整形 天井部回転ヘラ削り 摘み貼付け 内面: 植縫整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 褐灰色
14	須恵器 蓋	5号住居 覆土	16.4・一 <2.5>	外面: 植縫整形 天井部回転ヘラ削り 内面: 植縫整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 褐灰色

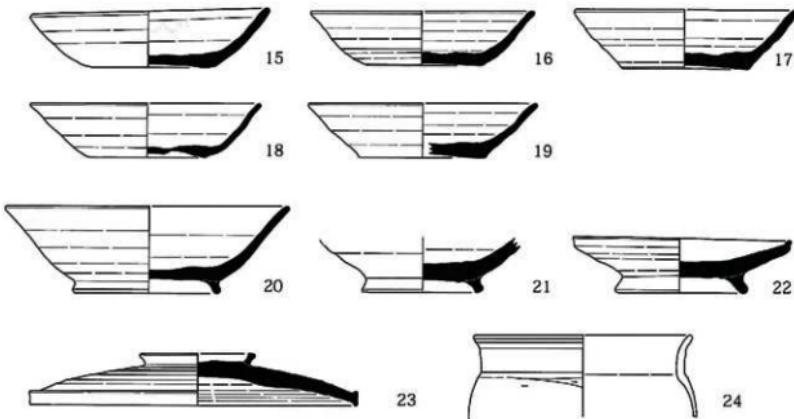
6号住居

調査区北西側にて検出された。2号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は、東西3.92m、南北3.83m以上で、東側にカマドが構築されている。床面は平坦で、全体的に硬く結まる。貼り床は認められず、住居中央部からカマド前までの硬化が頗るである。確認面から床面までの深さは約43cmである。壁周溝および柱穴は確認されなかった。カマドは、両袖に地山褐色粘土を貼り付けて構築され、東壁を約60cm掘り込み造り出されている。全体的に被熱は少ないが、底面には灰の堆積が認められた。構築材と考えられる礫等は検出されなかったが、地山褐色土の崩落が確認されており、地山褐色土およびローム等で成形されていたと推測される。遺物はカマドからNo.15～17、20、24が、床面からNo.21～23が出土した。掘り方は浅く住居中央が若干土坑状になる。出土した遺物から帰属時期は9世紀代であると考えられる。



第11図 6号住居 平面図・断面図・掘り方平面図(1/60) カマド 平面図・断面図(1/30)

- カマドDセクション「から4割はAセクションと同じ」
5. 黄褐色土 粘性弱・しまりあり 地山黄褐色土小ブロックおよび灰土小ブロックを多く含み炭化物粒を少含む。
 6. 黑褐色土 粘性弱・しまり弱 灰土粒および炭化物粒を少量含む。
 7. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄褐色土小ブロックおよび黄色石粉を少含み。
 8. 赤褐色土 粘性弱・しまりあり 灰土小ブロックを含む。
 9. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 灰土小ブロックおよび灰土能を少量含み。炭化物粒を含む。
 10. 黄褐色土 粘性あり・しまりあり 地山黄褐色土ブロック主。
 11. 黑褐色土 粘性弱・しまりあり 地山黄褐色土小ブロックおよび灰土能を少含む。
 12. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 灰土小ブロックおよび炭化物粒を少含む。
 13. 黑褐色土 粘性弱・しまりあり 地山黄褐色土小ブロックを多く含み、灰土・黄色石粉を含む。
 14. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 灰土粒および黄色石粉を少含む。
 15. 黄褐色土 粘性あり・しまりあり 地山黄褐色土小ブロックを多く含む。



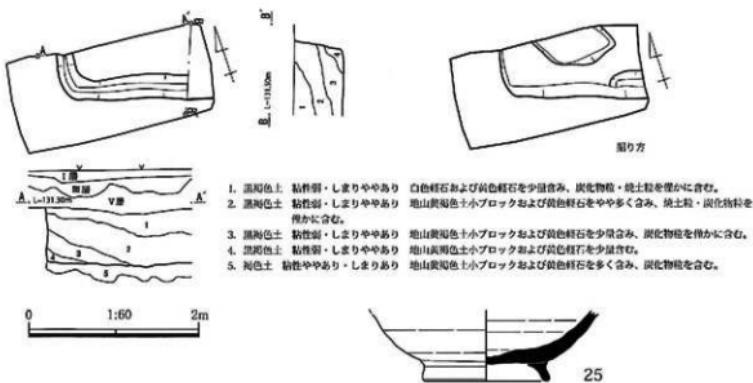
第12図 6号住居 出土遺物図(1/3)

第6表 6号住居遺物観察表(単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土部位	口径・底径 高さ・〈残高〉	整形・調整・文様等	灰土	焼成(質感) 色
15	須恵器 环	6号住居カマド 覆土	14.0・6.6 3.7	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形 付着物有 漏か(トーン部)	細砂粒・黒色粒 褐色	良好(硬質) 褐灰色
16	須恵器 环	6号住居カマド 底面	13.7・7.8 3.3	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形	細砂粒・灰色粒 褐色	良好(硬質) にぶい黄褐色
17	須恵器 环	6号住居カマド 煙道部底面	13.6・7.5	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形	細砂粒・黒色粒 白色粒	良好(硬質) 褐灰色
18	須恵器 环	6号住居掘り方 覆土	13.5・6.6 3.3	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形 器肉や薄目	細砂粒・黒色粒 褐色	良好(硬質) 褐灰色
19	須恵器 环	6号住居掘り方 覆土	13.9・7.8 3.3	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形	細砂粒・黒色粒 白色粒	良好(硬質) 褐灰色
20	須恵器 碗	6号住居 覆土	—・7.4 (3.3)	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形	細砂粒・灰色粒 褐色	良好(硬質) 褐灰色
21	須恵器 碗	6号住居 床面	16.8・8.4 5.3	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形	細砂粒・黒色粒 白色粒	良好(やや軟質) 灰白色
22	須恵器 皿	6号住居 床面	13.2・8.0 3.4	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形 口唇部に棱あり	細砂粒・白色粒 褐色	良好(硬質) 褐灰色
23	須恵器 蓋	6号住居 覆土	19.4・6.9 3.2	外面: 縦輪整形 内部: 縦輪整形	細砂粒・白色粒 褐色	良好(硬質) 褐灰色
24	土器器 皿	6号住居カマド 底面	17.9・— (6.7)	外面: 口縁部ヨコナデ 内部: 口縁部ヨコナデ	細砂粒・白色粒 雲母	良好(硬質) 褐色

7号住居

調査区東側にて検出された。調査区が狭く住居南西コーナー部のみの検出の為、規模等の詳細は不明である。床面は平坦で、若干硬化している。確認面から床面までの深さは約 66cm である。幅 26cm 前後、深さ約 8cm 程の壁周溝が周る。カマドは検出されず、その痕跡も確認されなかった。掘り方は浅く不整形である。遺物は覆土中から No. 25 が出土した。出土した遺物から帰属時期は 9 世紀代であると考えられる。



第 13 図 7号住居 平面図・断面図・掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)

第 7 表 7号住居遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土位置 出土層位	口径・底径 器高・(残高)	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
25	須恵器 碗	7号住居 確認面	—・7.8 (4.3)	外面：輪縁整形 底部右回転系切り後高台貼付け 内面：輪縁整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 褐灰色

溝

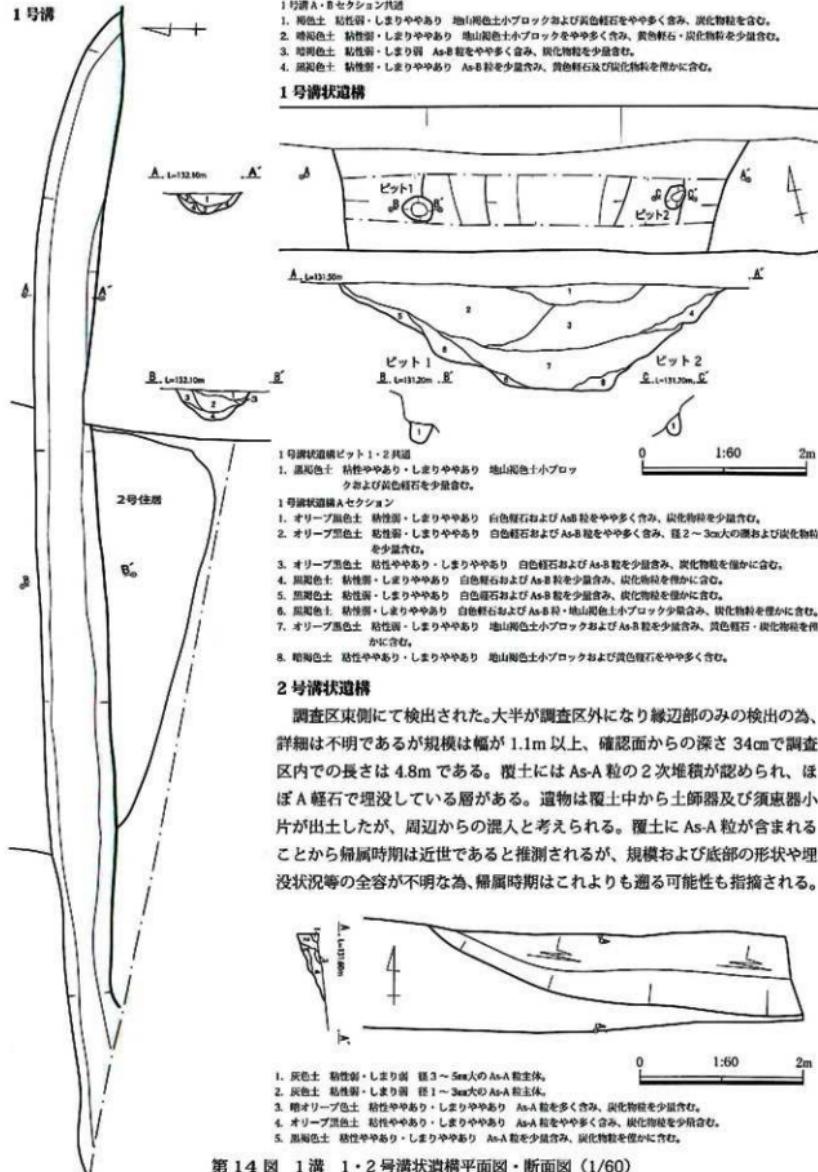
1号溝

調査区北西側にて検出された。2、6号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。規模は幅 78cm、確認面からの深さは 25 ~ 36cm で、調査区内での長さは 14.7m である。主軸方位は概ね N-88°-E であるが、東側ではやや西に方向を変える。西から東に向かって緩やかに傾斜し、東西での高低差は約 16cm である。覆土には As-B 粒が含まれ、褐色土小ブロックが多く含まれている。砂疊層は確認されず、流水の痕跡は認められなかった。遺物は覆土中より土師器および須恵器片が少量出土したが、重複する住居からの混入と考えられる。覆土に As-B 粒が含まれることから帰属時期は平安時代以降であると考えられる。

1号溝状遺構

調査区中央付近にて検出された。規模は幅 5.12m、確認面からの深さ 1.34m で調査区内での長さは 1.81m である。南北方向に主軸をもち、覆土には As-B 粒が含まれる。底部には若干はあるが砂質土の堆積が認められ、底面は平坦である。両壁の立ち上がりも緩やかで、斜面にピットが検出されており、付帯施設に関係するものと考えられる。遺物は、覆土中から土師器および須恵器片が少量出土したが、周辺からの混入と考えられる。覆土下層に As-B 粒が含まれる為、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。

1号溝



第14図 1溝 1・2号溝状造構平面図・断面図 (1/60)

土坑

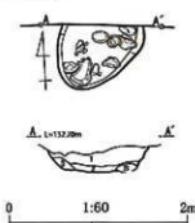
1号土坑

調査区北西側にて検出された。一部が調査区外になり、規模の詳細は不明であるが、長軸 112cm以上、短軸 90cm、深さ 28cmで平面形は橢円形である。覆土には As-B 粒が含まれ、底部には礫が散乱した状態で検出された。覆土に As-B 粒が含まれることから、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。

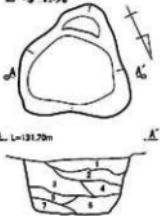
2号土坑

調査区西側にて検出された。5号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は最大幅部で 145cm、深さ 72cmで平面形は不整形である。底部は平坦で、掘り方は箱状である。覆土には As-B 粒は含まれず、堆積状況から人為的に埋められていると考えられる。遺物は覆土中より須恵器および土師器の小破片が検出されている。覆土に As-B 粒が含まれない点、帰属時期は平安時代以前であると推測される。

1号土坑



2号土坑



1号土坑

1. 喀褐色土 黏性なし・しまり弱 As-B 粒を多く含み、炭化物粒を少含む。
2. 喀褐色土 黏性弱・しまり弱 As-B 粒を多く含み、炭化物粒が少含む。
3. 喀褐色土 黏性なし・しまり弱 As-B 粒をやや多く含み、炭化物粒を少含む。

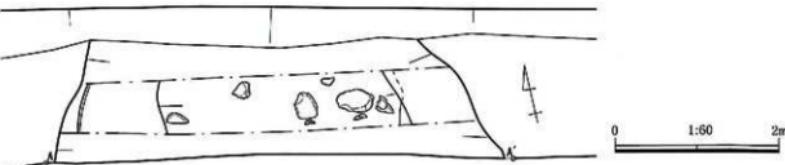
2号土坑

1. 喀褐色土 黏性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、炭化物粒を少含む。
2. 喀褐色土 黏性弱・しまりややあり 黄色軽石を多く含み、地山黄褐色土小ブロック・炭化物粒を少含む。
3. 黒褐色土 黏性弱・しまりあり 地山黄褐色土小ブロックおよび黄色軽石を多く含む。
4. 喀褐色土 黏性弱・しまりあり 地山黄褐色土小ブロックを多く含む。
5. 喀褐色土 黏性弱やあり・しまりあり 地山黄褐色土小ブロックをやや多く含み、黄色軽石を含む。
6. 剥離土 黏性ややあり・しまり弱 地山黄褐色土小ブロックおよび黄色軽石を多く含む。
7. 黑褐色土 黏性ややあり・しまり弱 地山黄褐色土小ブロック、黄色軽石を少含む。

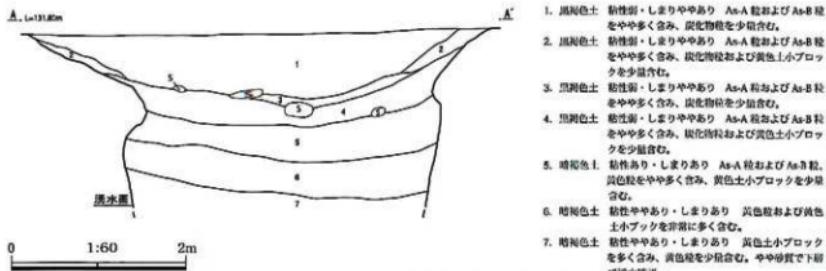
第 15 図 1・2号土坑 平面図・断面図 (1/60)

3号土坑

調査区中央付近にて検出された。規模は幅 5.25m、確認面からの深さは 2.10m 以上で調査区内での長さは 1.85m である。中位にて両壁ともオーバーハングしておらず、立ち上がりは急である。覆土上層には As-A 粒および As-B 粒が含まれるが、中層から下層にかけては As-A 粒は混入していないものと考えられ、黄色土ブロックを多く含む黒褐色土で埋没している。また、中層にて径 15 ~ 40cm 程の川原石が散乱しており、これより下層が黄色土ブロックが多い層となる。この層は一部人為的に埋められたものと推測される。確認面より 2.10m 挖り下げたが、底部は検出されず、崩落の恐れがある為、これ以上は振り下げられなかった。また、標高 129.65m 付近で湧水が認められた。遺物は、覆土中から土師器および須恵器片が少量出土したが、周辺からの混入と考えられる。覆土上層には As-A 粒が含まれるが、中～下層ではなく、As-B 粒のみの混入の為、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。次に用途であるが、湧水も確認されていることから、取水的な遺構であることも考えられ、大型の井戸の可能性も指摘される。

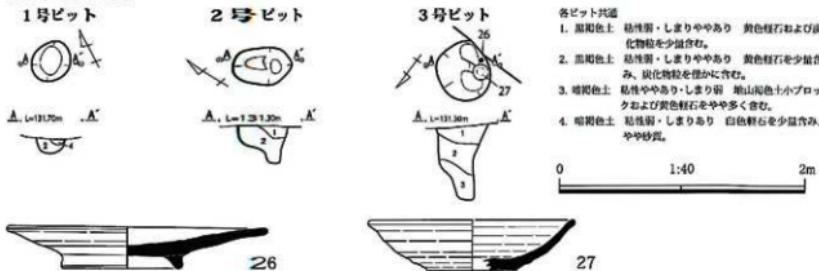


第 16 図 3号土坑 平面図 (1/60)



ピット

調査区西側と東側にて検出された。1号ピットは径33cm、深さ12cmの円形。2号ピットは径36cm、深さ32cmの円形。3号ピットは径49cm、深さ61cmの円形。いずれも組みあうものではなく、単体と推測され、用途は不明である。しかし、2・3号ピットは近接して存在しており、組み合うピットが調査区外に存在する可能性も考えられる。調査区が狹い為に今回は確認できなかったが、2・3号ピットの南側に掘立柱建物の存在が示唆されるところである。各ピットとも覆土にはAs-B粒が含まれないため、帰属時期は平安時代以前であると考えられる。



第18図 1～3号ピット平面図・断面図 (1/40) 3号ピット出土遺物図 (1/3)

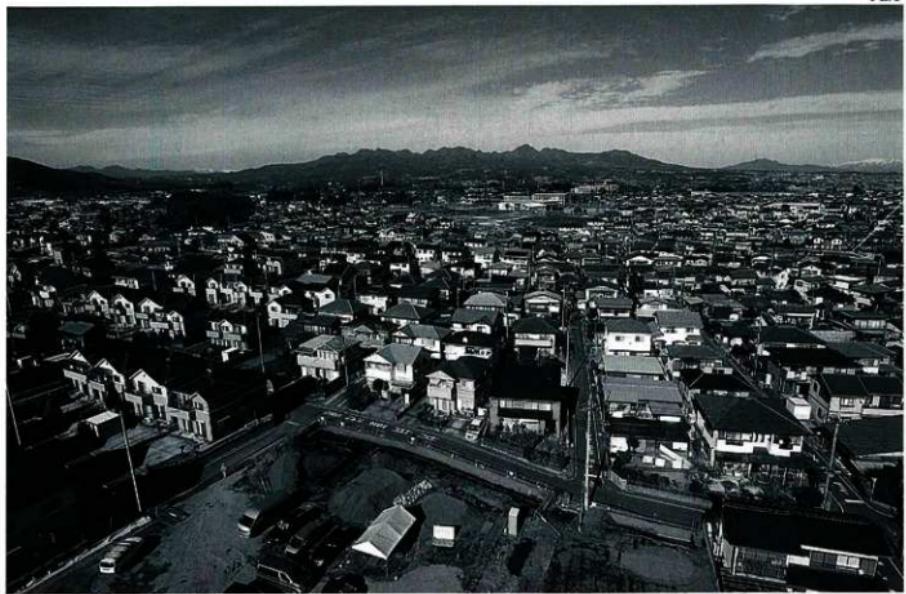
第8表 3号ピット遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 高さ・<残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
26	須恵器 盤	3号ピット 確認面	13.6・6.7 2.7	外面: 機械整形 内部: 機械整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 褐色
27	須恵器 环	3号ピット 胎土	18.7・— <5.4>	外面: 機械整形 内部: 機械整形	細砂粒・白色粒 黑色粒	良好(硬質) 褐色

VII 総括

今回の調査結果ならびに周辺遺跡および旧地形等から当該期の集落範囲の広がりを検討してみると、特に竪穴住居の密度が濃い箇所は、本遺跡から北西方面にあると推測され、密集して存在する可能性が考えられる。更に本文でも触れたように調査区東側から南東方向には掘立て柱建物跡の存在も考えられ、周辺一帯は広域に遺跡が分布していると推測される。また、今回検出された3号土坑は大型の井戸になる可能性も示唆される為、15世紀末から16世紀初頭に築造されたとする八幡館との関連も考えらる。

写真図版



調査区全景 上が北（株名山を望む）



調査区垂直全景 上が北



1号住居Aセクション 北から



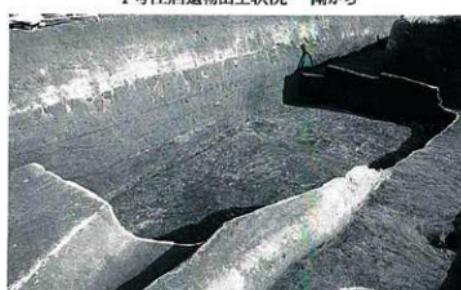
1号住居全景 東から



1号住居遺物出土状況 南から



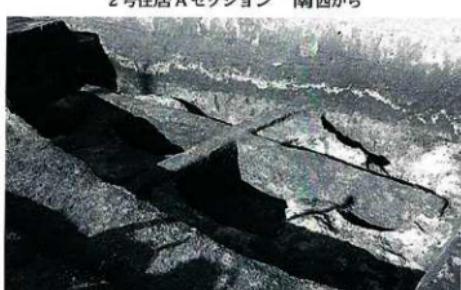
1号住居掘り方全景 東から



2号住居Aセクション 南西から



2号住居全景 西から



2号住居掘り方セクション 南東から



2号住居掘り方全景 西から



3号住居Aセクション 西から



3号住居遺物出土状況 西から



4号住居遺物出土状況 南西から



4号住居カマドセクション 南西から



4号住居カマド遺物出土状況 西から



4号住居全景 南西から



4号住居カマド掘り方 南西から



4号住居掘り方全景 南から



4号住居掘り方全景及びAセクション 南東から



5号住居セクション 北東から



5号住居遺物出土状況全景 南東から



5号住居掘り方全景 南東から



6号住居セクション 南から



6号住居遺物出土状況全景 西から



6号住居遺物出土状況 西から



6号住居カマドセクション 西から



6号住居全景 西から



6号住居カマド全景 西から



6号住居カマド掘り方全景 西から



6号住居掘り方全景 西から



7号住居全景及びセクション 南西から



7号住居掘り方全景 西から



1号溝 A セクション 西から



1号溝全景 西から



1号溝状遺構セクション 南西から



1号溝状遺構全景 西から



1号溝状遺構 1号ピット 全景 東から



1号溝状遺構・3号土坑全景 東から



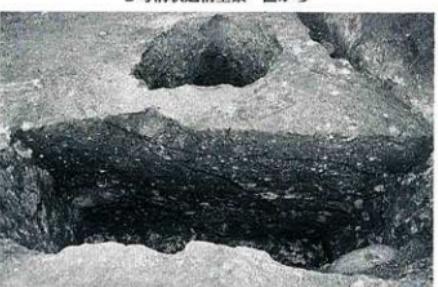
2号溝状遺構セクション 西から



2号溝状遺構全景 西から



1号土坑全景及びセクション 南から



2号土坑セクション 北から



2号土坑全景 南東から



3号土坑セクション 北から



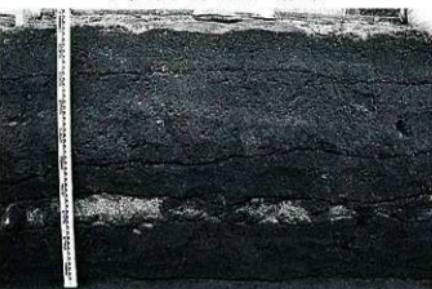
3号土坑全景 西から



2号ピットセクション 東から



3号ピットNo.26 出土状況 北西から



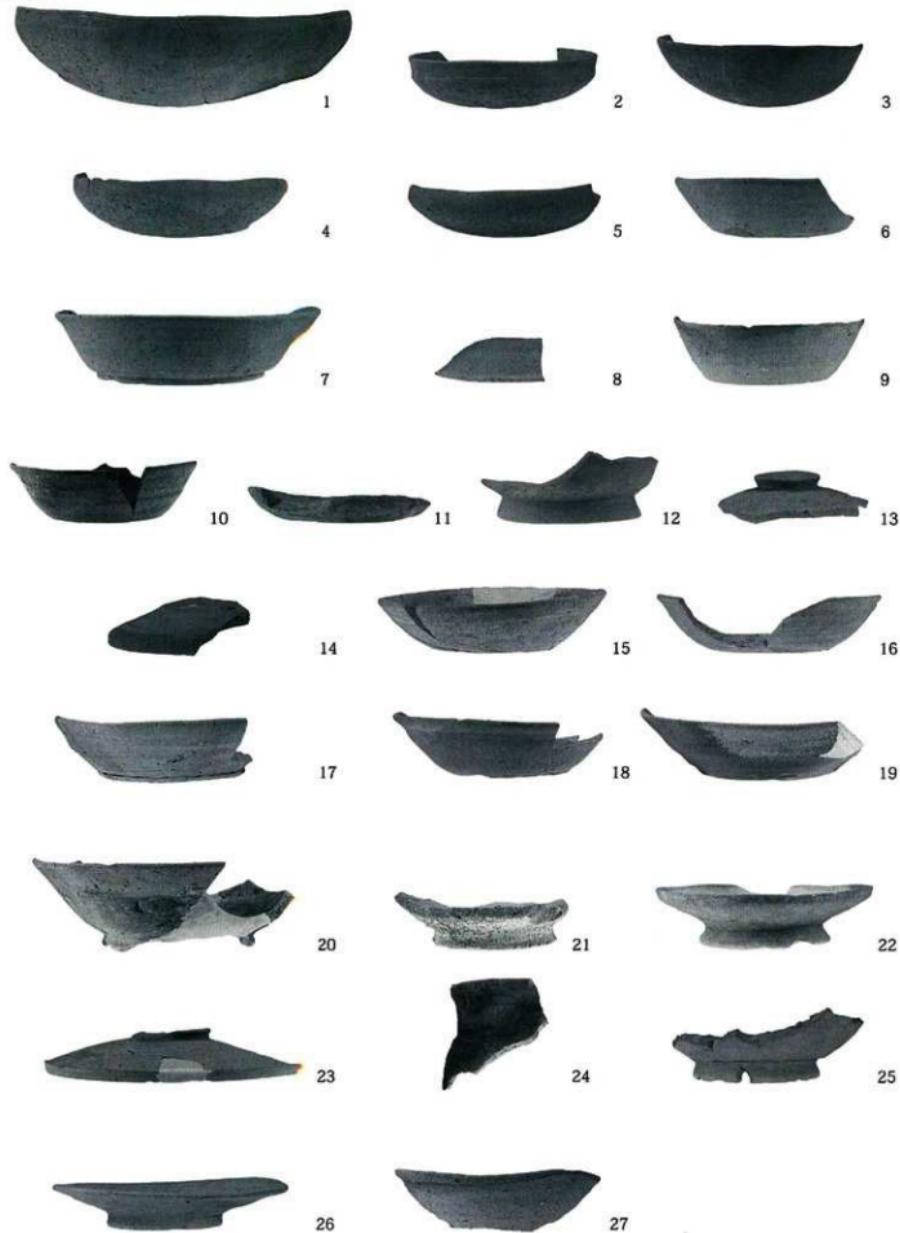
調査区北西部 As-B 層堆積状況 南から



作業風景



作業風景



参考文献

群馬県史編さん委員会	1990『群馬県史 通史編1 原始古代Ⅰ』群馬県
高崎市市史編さん委員会	1996『新編 高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
高崎市教育委員会	1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書高崎市教育委員会
田村 孝	1998『八幡二子塚遺跡』高崎市遺跡調査会
高崎市市史編さん委員会	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
高崎市市史編さん委員会	2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』高崎市
田口一郎 石丸敦史	2011『八幡中原遺跡3』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	ヤワタ タテイセキ
書名	八幡館遺跡
副書名	特別企画老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第358集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒370-0005 群馬県高崎市浜尻町930番地6
発行機関	高崎市教育委員会 文化財保護課
発行年月日	平成27(2015)年9月30日

所収遺跡名	八幡館遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市八幡町字館 768番1、768番56						
市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	616	36°20'21.40"	138°56'40.27"	20141201	20150120	175m ²	老人ホーム建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八幡館遺跡	集落	古墳時代～平安時代 平安時代以降	竪穴住居跡 土坑 溝状遺構 土坑	土師器 須恵器	八幡館に隣接すると推測される土坑および溝状遺構を検出

— 八幡館遺跡 —

高崎市文化財調査報告書第358集

平成27年9月25日 印刷

平成27年9月30日 発行

発行 高崎市教育委員会
文化財保護課

編集 有限会社 高澤考古学研究所

印刷 上武印刷株式会社